

■アートギャラリー・アトリアの現状と課題

I アトリアの現状

1. 概要

(1) 施設概要

【開館年月】	平成 18 年 4 月
【コンセプト】	現代アートの展覧会や地域に根ざした事業を展開し、多様な価値観を共有する場を目指す。
【展示室等の面積】	展示室 A・展示室 B：各 77.5 m ² 、スタジオ：195 m ²
【その他】	収蔵庫がなく作品の収蔵はできない。

(2) 事業の柱

○企画展事業

現代アートや、地域に根ざしたテーマによる展覧会を開催。若手作家を発掘する公募展や、市民参加型の企画展なども開催している。

○市民参加型事業

「ワークショップ」や「アートさんぽ」、「講座」を開催。アートを体験したり、アートに関する知識や技術を高める教育普及事業を実施している。

○学校連携事業

市内小中学校にアーティストを派遣し、特別な授業を行う「アーティスト・イン・スクール」や、学芸員等による学校向け出張トークを実施している。

○地域連携事業

地域のアートスポットや、市民のアート活動の情報発信に協力するほか、地域との連携企画などを実施している。

○アトリア・サポートスタッフ

アートボランティアが、ワークショップ等の運営サポートや、企画展の設営補助など行っている。平成 29 年度登録者数 16 名。

○貸しギャラリー事業

アート活動や作品発表の場として、展示室やスタジオの貸し出しを行っている。

2. 予算・決算

(1) 予算・決算の推移

平成 25 年度から 29 年度までの予算・決算の推移は表 1 のとおりである。

予算は、過去 5 年間で減少している。その要因としては、事業の柱となる「企画展」や「共催事業」等の事業費（必要経費）の変化によるものであり、年度ごとに企画展で起用するアーティストのギャランティが異なることや、企画展事業の再編、予算配分の調整等が影響している。

決算は予算に比例するかたちで減少となっている。

■表 1 予算決算の推移

年度	H25	H26	H27	H28	H29
総予算(円)	51,859,000	50,443,000	45,782,000	44,340,000	42,738,000
総決算(円)	49,850,830	47,119,613	42,527,270	40,241,677	35,918,497
予算(事業費)(円)	40,044,000	38,345,000	36,773,000	35,124,000	33,694,000
決算(事業費)(円)	38,035,830	35,021,613	34,839,035	32,337,993	28,307,993

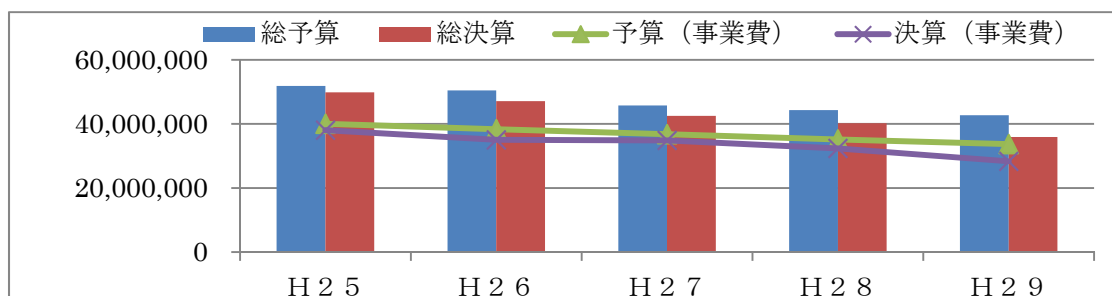
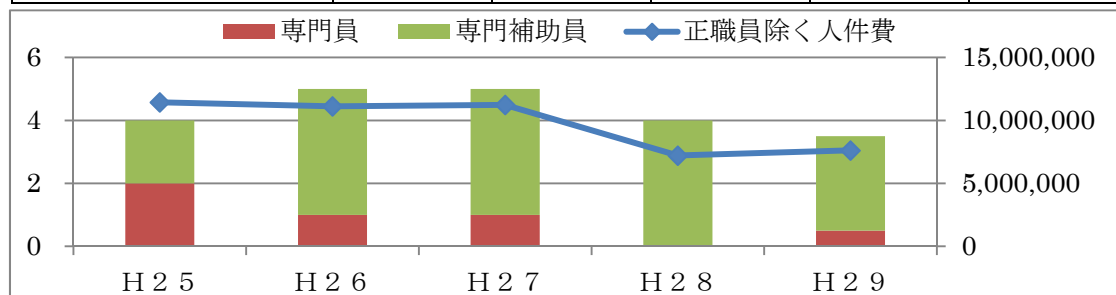


表 2 に示すとおり、正規職員の学芸員は過去 5 年のあいだ常時 2 名を配置している。非常勤職員である美術専門員及び美術専門補助員は、年度により配置人数や構成が異なり、直近の 2 年では少なくなっているため、正職員を除く人件費も縮小している。予算・決算の推移と合わせると、職員の配置人数や構成は、企画展等の事業展開に影響を与えている。

■表 2 人件費の推移

年度	H25	H26	H27	H28	H29
正職員除く人件費(円)	11,436,926	11,119,339	11,229,640	7,210,451	7,616,721
専門員(人)	2	1	1	0	0.5
専門補助員(人)	2	4	4	4	3



3. 事業評価

本市の行政評価では利用者数を指標としており、本市教育委員会の外部評価では施設の利用率を指標と定めている。

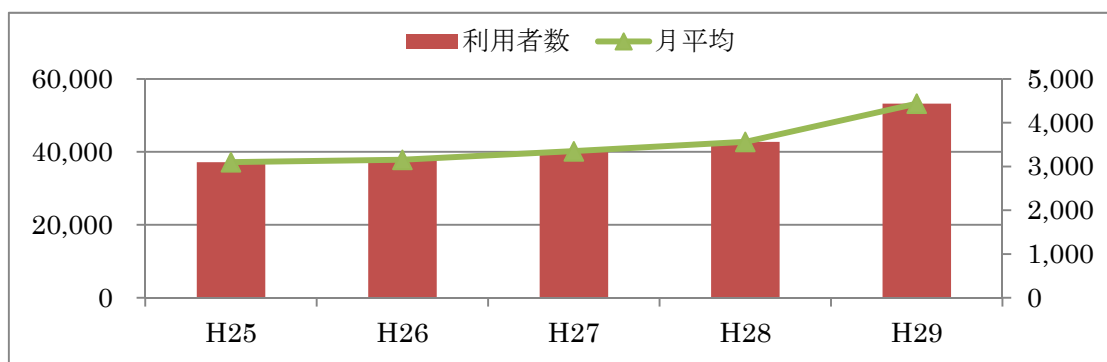
(1) 年館利用者数

表3に示したとおり、年間利用者数は過去5年で増加の傾向にある。

なお、平成25年度から平成28年度までは、展覧会や普及事業等の参加者の合計を年館利用者数としている。平成29年度は人感センサーを導入したことから、展覧会や普及事業等の参加者に加えて、図書コーナー等の利用者が加わり、利用者数の増加につながっている。

■表3 年間利用者数の推移

年度	H25	H26	H27	H28	H29
開館日数(日)	308	308	263	294	308
利用者数(人)	37,165	37,832	40,178	42,737	53,239
月平均利用者数(人)	3,097	3,153	3,348	3,561	4,437



(2) 展覧会ごとの年館利用者数

共催展、企画展、貸館の、1日当たりの利用者数は、表4のとおりである。

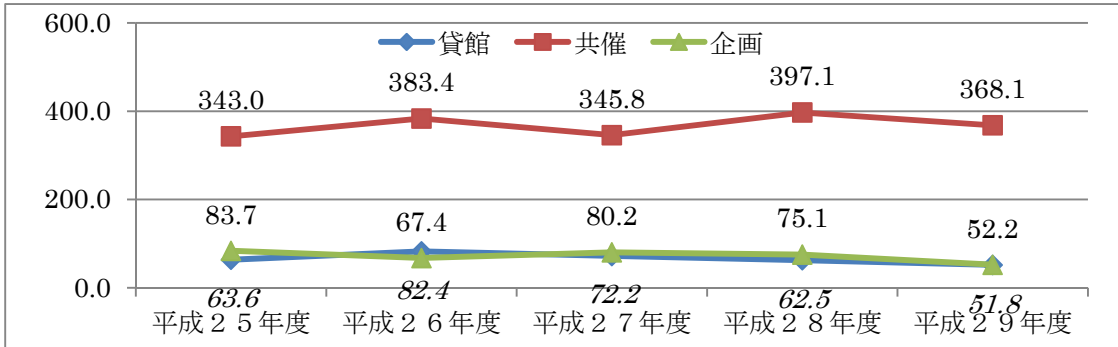
共催展は利用者数が多く、毎年、一定の利用者数を得ている。これは、市内小中高校の生徒による書初め展や硬筆展など、展示作品数が多いことや、児童生徒による作品発表の場として、多くの関係者が来館するためである。

また、企画展は、年度ごとの利用者数に差異がみられ、展示のテーマや内容が影響しているものと推測される。

■表4 展覧会ごとの1日当たりの利用者数

※ () 内は事業開催件数

年度	H25	H26	H27	H28	H29
共催展(人)	343.0(6件)	383.4(6件)	345.8(7件)	397.1(7件)	368.1(7件)
企画展(人)	83.7(6件)	67.4(7件)	80.2(7件)	75.1(7件)	52.2(5件)
貸館(人)	63.6(15件)	82.4(19件)	72.2(13件)	62.5(11件)	52.2(15件)



(3) 企画展ごとの利用者数

企画展は概ね以下のような構成で展開している。

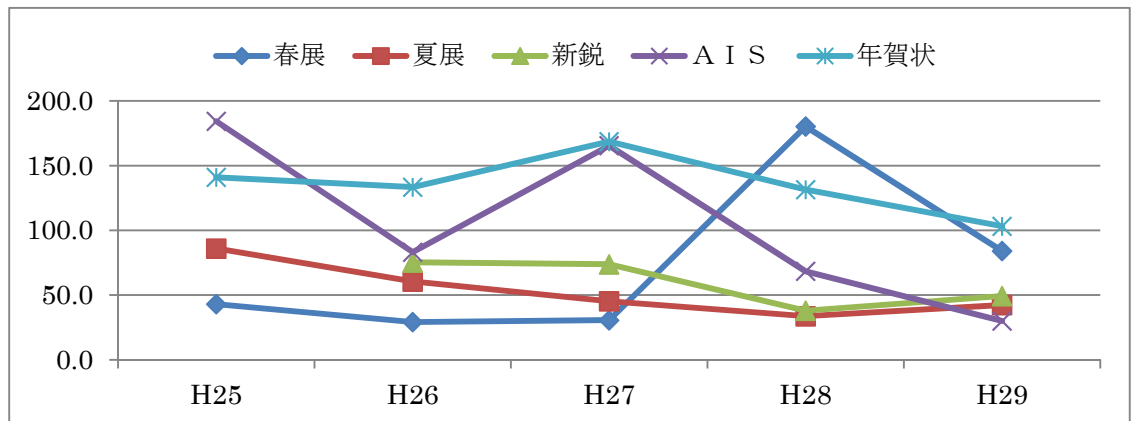
- 「春展」： 現代アートの多様な表現を探る
- 「夏展」： アートを身近に体感する
アーティストの作品に参加する（平成26年度から）
地域の特色を再発見する（平成28年度から）
- 「新鋭作家展」： 文化芸術の振興と新鋭作家の発掘や育成をめざす
- 「秋展」： 地域の特色を活かした表現やものづくりの魅力を伝える
（平成28年度まで開催）
- 「アーティスト・イン・スクール」：
市内の小中学校にアーティストやデザイナーを派遣し、
特別な授業を行い、その成果を発表する
平成29年度からは秋の展覧会として、講師のアート活動
や作品の紹介も行っている
- 「年賀状展」： 市民参加型企画で、誰もが気軽に作品を発表できる

開催時期や展覧会の内容により利用者数に差異が見られ、なかでも「アートな年賀状展」は、利用者が多い傾向にある。これは、年末に年賀状を公募し、応募した年賀状は原則すべて展示する企画であり、誰もが出品者として展示に参加できることや、出品者が家族や友人知人などの関係者とともに観覧を楽しむことができる親しみやすさが、多くの利用につながっていると考えられる。

なお、平成 28 年度の春展は、開館 10 周年記念事業として観覧を無料としたほか、川口市立グリーンセンターなど市内の多様な公共施設に作品を展示し、各施設をめぐりながら観覧するという企画であった。そのため、多様な市民等に観覧の機会が生まれたことが、利用者数の多さにつながったと推測される。

■表 5 企画展ごとの 1 日当たりの利用者数 ※各企画の下段は展覧会名称

年度	H25	H26	H27	H28	H29
春展 (人)	43.0	29.1	30.6	180.3	84.1
	反芻 篠原有司男	フィールド・リフレクション	日常事変	ここにもアートかわぐち	アートで解明！空気の正体
夏展 (人)	86.0	60.5	45.2	33.7	42.3
	ダイアローグ 青野正×高田洋一 公開制作による造形の対話	アーティスト・ラボ 「つくられる」の実験	アーティスト・ラボ2 シミュレーションゲーム	第5回新鋭作家展型にハマってるワタシたち	第6回新鋭作家展 影光
新鋭 (人)	—	75.2	73.7	37.9	49.3
		新鋭作家展第3回優秀者 白木麻子・大和由佳 / 第4回公募二次審査作品公開	新鋭作家展第4回優秀者 堀口泰代・對木裕里 / 第5回公募二次審査作品公開	第6回公募新鋭作家展二次審査プレゼンテーション展示公開	第7回公募 新鋭作家展二次審査プレゼンテーション展示公開
秋展 (人)	95.6	88.9	56.2	23.3	30.0
	川口の匠vol.3 音をつくる	川口の匠vol.4 麗のとき	川口の匠vol.5 信頼をつなぐ	河口龍夫一時間の位置	第12回アーティスト・イン・スクール 発信!コミュニケーション・ペインターズ
AIS (人)	184.3	83.1	165.4	68.4	
	第8回アーティスト・イン・スクール	第9回アーティスト・イン・スクール成果発表展	第10回アーティスト・イン・スクール成果発表展	第11回アーティスト・イン・スクール成果発表展	
年賀 状展 (人)	140.9	133.3	168.6	131.5	103.2
	アートな年賀状展2014	アートな年賀状展2015	アートな年賀状展2016	アートな年賀状展2017	アートな年賀状展2018



4. 特徴的な事業

次に挙げる2つの事業は、他の美術館では類例が少なく、継続的に行われてきた独自性の高い事業であり、美術関係者などからの評価も高い。

(1) A I S (アーティスト・イン・スクール)

第一線で活躍するアーティストやデザイナーが講師となり、市内の小中学校で図工や美術の特別授業を行うプログラムである。本市では、平成15年度よりアーティスト・イン・レジデンスとしてアーティストが学校内で制作を行う事業を実施しており、平成18年度からは授業そのものを行うように発展してきた。この事業のコーディネイトをアトリアが担当している。

9月から10月にかけて授業を行い、その取り組みや成果について作品展示などを通して発表している。学校と美術施設、アーティストが連携し、子どもの創造力や想像力、コミュニケーション力を育むための取り組みである。

大学や美術施設、自治体等から、視察や取材を受けるなど、外部からの評価が高い事業である。

(2) 新鋭作家展

開館当初に、「川口の新人たち」展として、市内で活動する若手作家を発掘、推薦し、紹介する企画展としてスタートした。現在では、新鋭作家の発掘や育成を目的とした公募展として開催している。

展覧会として実施したいプランを公募し、有識者の審査により優秀者を選出する。優秀者が1年をかけて、地域に関する調査や市民参加イベントなどを展開する、プロジェクト型の企画展である。

公募展としては特徴的な取り組みとして美術関係者等に注目されているが、応募件数の伸び悩みが課題となっている。

5. 川口をテーマにした企画展「川口百景」「川口の匠」

次に挙げる2つの事業は、川口をテーマとする企画展であり、市内外や地域の産業界から評価が高く、現在でも、開催を望む声の多い事業である。

なお、各企画展の1日当たりの利用者数は表6のとおりである。「川口百景」は平均137.6人/日、「川口の匠」は平均98.8人/日と、いずれも比較的多くの利用者数が訪れている。

■表6 「川口百景」「川口の匠」の1日当たり利用者数

年度	川口百景		川口の匠				
	H20	H21	H23	H24	H25	H26	H27
利用者数(人)	146.3	128.9	158.9	94.2	95.6	88.9	56.2

(1) 企画展「川口百景」

市制施行 75 周年を機に行われた公募による写真展。平成 20 年度が 734 点、平成 21 年度は 1,249 点の応募があり、応募作品のなかから毎年 50 点を選考し、展示を行った。

(2) 企画展「川口の匠」

「まち×匠×アート」をキーワードに、ものづくりのまち川口ならではの職人技や洗練された様式美などを、地域産業とアートの視点でとらえる企画展で、平成 23 年度から 5 年間開催した。

完成された作品だけでなく、道具のほか写真や映像により製作工程を伝え、高い技術力とともに、匠の魅力を伝える、特徴的な企画展である。

6. 現状と課題のまとめ

(1) 利用者数

【現状】 年間利用者数は増加傾向にある。(P.3)



【課題】 開館から 10 年を経て、施設の認知度が向上してきていると推測される。さらなる認知度向上とともに、市民ニーズに的確に応えていくための、事業計画及びそれに付随する運営体制の検討が求められる。

(2) 企画展示事業

【現状】 1 日当たりの利用者数は、A I S 成果発表展が平均 106.2 人/日、年賀状展は平均 135.5 人/日であり、企画展のなかでは特に利用者数の多い事業となっている。(P.5)



【課題】 A I S 成果発表展と年賀状展は、開館当初から継続的に展開している事業であり、認知度も高く、利用者も多いことから、今後も継続的な展開が必要である。